

第1回函館市持続可能な町会運営に関する検討委員会 発言要旨

分類	内 容	発言者	
業務の スリム化 ・ 方法の 見直し	たな卸し	専門部のなかで重複して行っていることは多いと思うので、見直しは必要だと思うが、その洗い出しに手が回らない状況である。	上野山委員
	たな卸し	回覧板や町会だよりは本当に必要なのか、フェイスブックなどで見られれば配らなくてもいいのかなど、アンケートを取る必要があると思っているが、時間がなく難しい。	上野山委員
	たな卸し	業務のスリム化は、住民（会員）のニーズをとらえる必要がある。	酒本委員
	たな卸し	業務の棚卸しを実際行ったが、一つの町会レベルで棚卸しできることは意外に少なく、地区や市全体の会議が多かったところである。しかし、業務を見える化したことで、町会長の負担が明らかに大きいのがわかったので、一定の効果があったと考える。	丸藤委員
	たな卸し	他都市で町会の棚卸しを行ったが、最終的には、行政とのお付き合いの会合、行政からの依頼が多いところである。町会だけが変わるのではなく、行政サイドの見直しも必要と考える。	酒本委員
	組織のスリム化	業務のスリム化ができれば、組織のスリム化もできる。	中村(馨)委員
	組織のスリム化	役員のなり手不足で複数の専門部を統合しても、一人の負担が増えてしまうので、やはり役員のなり手を増やす必要がある。	上野山委員
	役割・位置付けの見直し	加入率が50%くらいまで減っている場合、町会が中心となった地域コミュニティの活性化は難しいので、町会は、スリム化して最低限のこを行い、住民ニーズがある活動は、その活動ができる地域の多様な団体にコーディネートする役割へ転換した方が良いのではないかと。	酒本委員
	役割・位置付けの見直し	地域の課題は、細分化し増えていくので、町会がすべてに対応するのではなく、コーディネーター役になることが必要で、それがスリム化にもつながると思う。	丸藤委員
その他	函館は、地域によって特徴があるので、一括して同じようにスリム化や方法の見直しを進めるのではなく、地域ごとや段階的なアプローチが必要ではないかと。	菊池副委員長	
近隣町会との合併	近隣町会との合併は、距離的にも離れており、また、合併すると範囲が広くなり大変だと思う。	上野山委員	
近隣町会との合併	業務や組織のスリム化の先に、合併が出てくると思うが、関係町会の役員の感情などを考えるとなかなか難しく、事業の連携くらいが現実的だと思う。	酒本委員	
近隣町会との合併	合併やエリアの再編などは、法律に規定されているので、方法自体はそれほど難しくない。実際には、総会をどのように行うかというのが問題になってくると思うが、ケースが出てから検討すればよいと思う。	石郷岡委員	
なり手・担い手の確保	北海道では、地域の元気なアクティブシニアの方に活躍の場をつくろうと、研修会などに取り組んでいるので、そういう意識の高い高齢者を仲間にする方法が考えられる。	丸藤委員	
なり手・担い手の確保	町会加入や町会役員ということではなく、町会がコーディネートした企画などに、つながって活動していくというふうにししないと、町会自体もスリム化していかない。	丸藤委員	
なり手・担い手の確保	大学生など若い世代も、地域コミュニティの様々な課題を解決する軸となる組織として、町会が必要だと認識しており、また、コロナ禍でリモートが増えたことで孤独感を抱き、コミュニティの重要性を実感している若い世代が増えている。	酒本委員	
なり手・担い手の確保	NPOのように、地域のなかには潜在的に地域を良くしたいという人が多いと思う。その人たちの町会への参加を得られれば良いと思うが、そういう人たちは、自分の望む活動のほかに、町会運営など違うことまでやらされることへの嫌悪感があるので、その整理整頓、コーディネートが上手いけば、スリム化にもつながると思う。	丸藤委員	

分類	内 容	発言者
運営支援	町会の内部から業務のスリム化・組織のスリム化を行うことは、現在の役員のプライドのようなものがあり、なかなか難しいと思う。市や町会連合会の手助け・ファシリテートが必要ではないか。	中村(馨) 委員
情報発信	町会の活動内容が具体的に分かれば、引越して新しく函館に来た方、函館市内で引越した方が、町会に入ろうと興味が持てると思う。	中村(和) 委員
情報発信	町会だよりも、地域の細かい情報が掲載されていると、見る人が興味を持ちやすいと思う。	中村(和) 委員
情報発信	町会に加入すると、子どものいろいろな行事があること、また、子どもと一緒に参加すると他世代の方と交流ができることを、子育て世代の親にもっと周知すると良いと思う。	中村(和) 委員
意識改革	若い人が入らず大変だという一方で、スリム化や合併には、プライドなどもあり反対というのは明らかに矛盾しているので、そこを解消しないといけないと思う。	石郷岡 委員
加入メリット・デメリット	PTAでも役員のなり手不足で困っているという話があり、子育て世代の親は、もしかしたら、町会に入って役員になると大変だと思い、加入しないのかもしれない。	中村(和) 委員
加入メリット・デメリット	札幌市のように、町会が地域の道路の除排雪を行うのであれば、町会に加入するという声があり、地域住民は、目に見えるメリットが無ければ町会に入らないと感じるところである。	中村(馨) 委員
加入メリット・デメリット	高齢者の町会加入のメリットは結構あると思うが、若い人に対する町会加入のメリットを見出だせればよいと思う。	菊池 副委員長
必要性	町会は、地域づくり、地域に住んでいる人の命と暮らしを守ることに徹することで、地域住民から町会の必要性に対する理解も進み、持続可能になると考える。	丸藤 委員
必要性	10年後、20年後、そもそも町会は必要なのか、それとも町会は必要だから現状を維持するための方法を考えるのかによって、発想が変わってくると思う。	石郷岡 委員
必要性	町会は、街路灯、ゴミ拾い、登下校の見守りなど目に見えないところで、地域のためになる活動を様々行っており、町会がなくなるということは、自分のことしか考えない人たちだけの住みにくい地域になっていくのではないかと考える。	丸藤 委員
必要性	札幌市では、担い手不足で解散した町会が、除排雪やゴミステーションの管理などの必要性により任意団体をつくり、その団体が子供向けの行事を行うなど、一度解散しても新たな町会ができてきている例がある。	酒本 委員
必要性	地域の中で、最低限の生活基盤を確保するためには、町会は必要であり、町会が機能することが、地域の財産、価値を高めることになる。	酒本 委員
必要性	町会がなくなり、実際困るのは、街路灯だと思う。	上野山 委員
その他	町会の活性化や、持続可能な町会になるためどうするか考えるには、町会加入はもちろん、活動への参加、また、実際に役員を経験してみないとわからないのではないか。	上野山 委員